人権なら

● ひと・まち・生き活き

2025年12月1日

第180号

NPOなら人権情報センター

額安寺周辺をフィールドワーク

深澤吉隆さんを講師に三宅町人権学習講座

三宅町人権学習講座が11月８日にあった。第2回目の今回はフィールドワークを企画。大和郡山市の額安寺周辺を歩いた。

コースは平端駅－天理軽便鉄道額田部駅跡－額田部会ケ峰－推古天皇神社－額安寺（**写真**）－額田部窯（平窯）跡－鎌倉墓。県立同和問題関係史料センターの深澤吉隆さんが案内。13人が参加した。

法隆寺と天理を結んでいた天理軽便鉄道

天理軽便鉄道は平端を中間に法隆寺と天理を結ぶ鉄道として1915年に開業。1945年に戦況悪化のため、「不要不急の線路」に指定。運転中止となった。

推古天皇神社は、病に伏した聖徳太子（厩戸皇子）が熊凝道場を守るように命じ、舒明天皇（推古天皇の皇子）によって、現在の大安寺が建立された。こうした関係で推古天皇が祀られたと考えられる。

額安寺は叡尊と忍性が鎌倉時代中期に再興

額安寺は聖徳太子が建立した熊凝道場の跡が寺院となった。平安時代に衰退。鎌倉時代中期に西大寺の僧、叡尊とともに、弟子の忍性が復興した。

律宗では文殊菩薩を厚く信仰するが、文殊は貧窮者の姿で行者の前に現れると説いている。叡尊や忍性が貧者や病人の救済に尽力した教理的根拠と考えられる。国指定の重要文化財である額田部窯跡（**写真**）は額安寺の再建時に瓦を焼いたと考えられる。

忍性の遺骨は額安寺、極楽寺、竹林寺に分骨

鎌倉墓（**写真**）は8基の五輪塔がある墓所。一番大きい五輪塔が忍性の墓。忍性の遺骨は額安寺と鎌倉極楽寺、生駒竹林寺の三か所に分骨されている。

発掘調査で骨蔵器や埋納施設が発見された。骨蔵器は瓶子（へいじ）のような独特の形をしていて、竹林寺の忍性墓からも同じ銅骨蔵器が出土している。

深澤さんの丁寧な説明を聞いて、三宅町に生まれた忍性の生涯を辿ることができた。また、天理軽便鉄道は戦争で無くなったこと、寺社はかつて僧侶の学問の場であり、現在のように参拝する場所でも、葬儀を行う場所でもなかったことを学ぶことができた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

米田富翁記念碑を清掃

毎年5月と10月の年2回、関係者で作業

五條市にある「米田富翁記念碑」（**写真**）の清掃作業を10月29日に実施した。

当日は天候に恵まれ、草刈りを中心に記念碑周辺も綺麗に清掃。葛のつるに苦戦したが、無事に終えることができた。

途中、山下力さんや、米田富さんとともに活動していた人が声掛けをしてくれ、当時を懐かしみながら談笑。会話の熱量がどんどん上がり、独演会の様相になった。米富さん生前の懐かしい話を聞くことができ、有意義な時間が過ごせた。

小さなつながりを大切にしたい

「かいほう塾」と遊ぼう会が「わいわい」交流

「かいほう塾と交流！　わいわい食堂」を11月20日、三宅町のあざさ苑で行いました。今回はかいほう塾の子どもたちを応援する気持ちを込め、もっと「わいわい」交流になればと思い、企画しました。

かいほう塾は、なら人権情報センターが町の委託で中学生の学習支援や居場所づくりをしています。

この日のメニューはハヤシライスとマカロニサラダと手づくりフルーツゼリーです。参加者は小学生6人・中学生7人・かいほう塾13人・高校生3人・子どもサポーター5人・かいほう塾スタッフ6人・保護者2人・中学校の先生2人の合計44人でした。

大人が繋がっていれば子どもの笑顔が守れる

かいほう塾の子どもたちは食後、ボランティア作業室で学習スタッフとおしゃべりしながら、学習をする子、小学生とカードゲームで盛り上がる子、トランプやボードゲームで遊ぶ子と様々です。

食事の部屋は中学生に配膳などを任せると、気持ちよく引き受けてくれて、力を発揮してくれます。いつものわいわい食堂の輪がひろがった感じがしました。「おいしかった。ありがとう」と直接言ってくれる姿に、少し大きく、やさしく育っている子どもたちの様子を伺うことができて、うれしい時間となりました。

今回も子どもたちを気にかけ、応援してくれるたくさんの大人の存在がありました。子どもたちは、いろんな大人にやさしいまなざしで見守られていると感じます。そんな大人たちがつながっていれば、子どもたちの笑顔が守られると思いました。小さなつながりを大切にしていきたいです。　（あそぼう会・山本　薫）

強制隔離政策の過ちを学ぶ

天理・二階堂校区人推協が「ハンセン病」学習会

天理市二階堂校区人推協は10月25日、「ハンセン病問題とは―過ちを繰り返さないために私たちにできること」をテーマに学習会を開いた＝**写真**。

ハンセン病回復者支援センターの加藤めぐみさんが講演。最高裁は2024年7月3日、「優生裁判」で優生保護法は違憲。優生思想は差別と認定した。

優生思想を基に89年続いたハンセン病患者への「絶対隔離絶滅政策」は断種・堕胎、嬰児殺の被害や、「無らい県運動」での強烈な偏見差別で患者や家族は「人生被害」を受けた。

「コロナ」禍を振り返り、強制隔離政策の過ちを学び、今に生かすことが大切。回復者が安心して生活できる環境をつくること。優生思想を排し、共に生きる地域社会の創造など、今後の課題を提起した。

高校卒業後、療養所を退所し、やっと社会復帰

続いて、ハンセン病関西退所者原告団「いちょうの会」共同代表の岡山育夫（仮名）さんが講演した。

岡山さんは小学5年の頃、「体の至る所に赤く腫れあがった斑紋」ができ、病院で「らい菌」が見つかる。

大阪駅から「伝染病患者輸送中」と書かれた列車で岡山の長島愛生園に。母との別れなど辛い思いをした。特効薬「プロミン」で順調に回復し、療養所内の「県立邑久高校新良田教室」に入学。野球部の遠征試合で各地の療養所をめぐった。

差別の目を恐れながら地域での生活が始まり、「偽りの履歴書」を持っての職探しでやっと工員の職に。その後、結婚差別を受け、荒れた時期も。同じ回復者の女性と結婚。2人の子を授かり、長男は大学を卒業し商社に入社。その後、結婚した。しかし、今も我が子にハンセン病歴を伝えきれずにいる。こうした苦悩を語り、一緒に考えて欲しいと訴えた。

法隆寺とその諸相を訪ねて

県民歴史講座で法隆寺周辺をフィールドワーク

県立同和問題関係史料センターの第3回県民歴史講座が10月28日、「法隆寺とその諸相」をテーマにあり、法隆寺周辺をフィールドワークした。深澤吉隆さんが案内。南大門をくぐり法隆寺中門辺りで地域の概要と法隆寺について説明した＝**写真**。

中世の被差別民衆の姿が現れてくる地域

西院伽藍は聖徳太子在世時のものではなく、7世紀後半～8世紀初の建立。焼失した「若草伽藍」の存在も1934年の調査で確認されている。

西大門を抜け、土塀に沿って少し坂を上がり、ウォーナー塔へ。後ろには塀の先にある「西円堂」が見渡せる。西院伽藍北西の小高い場所に建つ八角円堂。峰の薬師と呼ばれ、行基が建立との伝承がある。

両側に古びた家が並ぶ西里を抜け、古墳時代後期の藤ノ木古墳へ。古墳西方の子守神社周辺は「国符後ノ乞食」と呼ばれる被差別民が居住。「まひまひ」（舞々）などの芸能を行っていた。

被差別部落と精神世界の広がりが感じられる

浄慶寺（浄土宗本派）－龍田神宮（**写真**）へ。境内には「金剛流発祥之地」の石碑が建つ。大和猿楽四座の一つで法隆寺周辺に根拠を持つ。

正月の「皮的神事」や、下之庄村の草場絵図も紹介。被差別部落と龍田神社の神事をめぐる繋がり、「精神世界」の広がりが感じられた。

法隆寺周辺は藤ノ木古墳があり、中世には多くの被差別民衆の姿が登場する興味深い地域。その時代の佇まいと風景がいまも残る。話を聞いていると、人びとの姿が立ち上がってきて胸がざわついた。

誰にも起こるデジタル性暴力

「知っておきたい女性への暴力」セミナー研修

県女性センターが11月7日、女性への暴力防止に向けたセミナーを開催。櫻井鼓・追手門学院大学教授がデジタル性暴力の現状と対応について語った。

犯罪被害者支援や刑事裁判の心理鑑定に携わる経験をもとにした話は、性暴力被害を身近なものに感じさせた。

性暴力とは同意のない性的な行為をさす。2023年の法改正で「強制性交等罪」から「不同意性交等罪」に。恋人や夫婦間も「不同意」は処罰対象に。16歳未満の子どもには同意の有無に関わらず処罰対象となる。子ども同士の性被害や性加害を防ぐには同意と自分の大切さを伝えることだ。

デジタル性暴力は様々な手口で繰り返される

SNSをきっかけとした被害児童数は昨年、389人。10年前の10倍に。実際は17～18倍と考えられる。

デジタル性暴力は様々だ。言葉巧みに性的な画像や動画を送信させ、金銭や性的行為を要求したりするセクストーション。わいせつ目的で若者を手なずける性的グルーミングはマッチングアプリや、オンラインゲームなどのSNSを介してなされる。

加害者の手口は子どものもろさを見抜き利用。にせの愛情や信頼を見せて疑似的関係に手引きする。被害に遭う子どもの心理キーワードは「承認欲求」だ。性的世界を体験してしまい、被害が繰り返される。

SNS介した性暴力の鍵を握るのはリアルな関係

他に盗撮やリベンジポルノなども。被害支援は被害者の安心安全をめざし、適切な機関（警察・児童相談所・ワンストップセンターなど）に相談することだ。

SNSを問題視するだけでは子どもの孤独感や傷つきといった根っこの問題は解決されない。ネット問題のカギを握るのもリアルな関係だと話した。

宇治市の「ウトロ」を訪れ交流

田原本町企業内人推協が秋期研修を実施

田原本町企業内人権教育推進協議会は11月21日、秋期現地研修として京都・宇治市にあるウトロ平和祈念館を訪問。11人が参加した。

今回の企画は5月の人推協総会でキム・スファン・副館長に講演してもらったことがきっかけで実現した。勝村誠・館長が出迎え、ウトロの歴史や闘いの説明とともに、周辺の地形や展示室を案内してもらった。

祈念館のマダン（屋外広場）で焼き肉パーティ

研修の締めくくりでは、2022年建設の祈念館のマダン（屋外広場）で勝村館長や館のスッタフと焼き肉とキムチを食べながら、交流会をもった。

吉川孝宏・人推協会長は「ウトロに初めて来たが、しっかりと学習させてもらえた。また、再会したい」と語った。

編集後記　☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆

2025年も残り1か月。今年も円安インフレ誘導の経済政策による物価高が続いた。庶民の家計は困窮を極める。実質賃金は低下、雇用も不安定な中、税金は高負担。結果、国庫収入はインフレ課税で数年続きの大幅増だ。「強い経済」をつくるとして予算は軍事費の増額を前倒し。税金が庶民のためではなく、上級国民のために使われる。予算の使い道の透明度は世界第94位。無駄な租税特別措置、補助金、助成金は大企業、富裕層を優遇する。この癒着を止めない限り、庶民の生活苦は永久に続く。庶民の生活不安や不満の矛先は愚かにも「外国人」「生活保護者」に向かう。株高が続くも、実体経済は衰退の一途だ。庶民の生活破壊と、日本経済の崩壊は止まらない。

作品展を観賞し交流深める

岡山の2つのハンセン病療養所が文化祭

岡山県にある二つのハンセン病療養所の文化祭が11月2日にあった。

架け橋　長島・奈良を結ぶ会などのメンバーが訪問。作品を鑑賞したあと、愛生園さざなみハウスで中尾さんを交えて昼食したり、なじみの入所者と会場や居宅を訪ねるなどして交流。有意義な一日を過ごした＝**写真**。

入所者の創作品は高齢化で少なくなっているが、奈良出身の中尾伸治・愛生園自治会長は今も活発に取り組んでいて、新作の陶板絵8点を出品していた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

西大寺界隈の史蹟を探索

反差別・人権交流センターがフィールドワーク

反差別・人権交流センター「絆」は11月15日、「西大寺界隈を歩く」をテーマにフィールドワーク。案内は吉田栄治郎さん。14回目となる今回は19人が参加した＝**写真**。

垂仁（すいにん）天皇陵、菅原天満宮を巡見。垂仁天皇は第11代天皇。だが、陵に誰が葬られているかは不明だという。菅原天満宮は学問の神様として知られる菅原道真を祀る日本最古の天満宮。この2か所で時間を費やし、予定の喜光寺、西大寺奥の院は訪問を断念した。終了後、昼食しながら交流した。

ニュースレター「人権なら」
発行：NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301－1
TEL:0744-33-8585／FAX:0744-32-8833
E-mail：info@nponara.or.jp
http：//www.nponara.or.jp/